慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	人文地理学に対する大学入試受験生の考え方に就いて
Sub Title	Students' notion on the basic concepts of human geography observed through their answers at the entrance examination
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1953
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.46, No.6 (1953. 6) ,p.460(52)- 464(56)
JaLC DOI	10.14991/001.19530601-0052
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19530601-0052

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌　第四十六卷　第六號

資料

人文地理學に對する大學入試受驗生の考え方に就いて

小島榮次

昭和二八年度本塾經濟學部入學試驗の人文地理に次の問題があつた。

左に掲げた多の言葉のうち人文地理研究上の最も根本的な概念を現わすもの三つを選び、その番號だけを終りの（　）内に記入しなさい。

（1）生活樣式　（2）產業　（3）移動　（4）分布　（5）政治
（6）集落形態　（7）地形　（8）文化　（9）平野　（10）貿易
（11）地理區又は地域　（12）人口　（13）交通　（14）環境　（15）土壤
（16）氣候　（17）雨量　（18）海洋　（　）（　）（　）

これは人文地理學の指導概念に就いて訊いたもので、正解は（4）、（11）、（14）、即ち分布・地理區又は地域・環境であつたのだが、正解は極めて少かつた。斯うした原理的な考えに不慣れな人達であるし、入學試驗場の雰圍氣の中で落着いて考えることも困難であつたろうから、この不成績は無理もないと思う。然し乍らこの問題の回答を調べることによつて、この人達の人文地理學に對する考え方を或る程度まで窺えると思うので、ここにその集計をしてみることにした。勿論、人文地理學上の概念を、重要なもの重要でないものを問わず全部網羅して示したわけではないから、この集計から把え得ることは極く限られたことでしかないであろう。例えば、ここに示されてない何かの概念を擧げたい人があつても、ここではそれを知ることができないのである。

第一表

回答	枚數	百分比	回答	枚數	百分比
地形、環境、氣候	217	12.76	生活樣式、環境、氣候	39	2.29
地形、土壤、氣候	93	5.47	產業、環境、氣候	37	2.18
產業、地形、氣候	73	4.29	產業、文化、環境	35	2.06
地形、文化、氣候	56	3.29	分布、環境、氣候	34	2.00
生活樣式、地理區又は地域、環境	54	3.17	分布、文化、環境	33	1.94
生活樣式、地形、氣候	53	3.12	地形、地理區又は地域、氣候	32	1.88
分布、地理區又は地域、環境	53	3.12	產業、地理區又は地域、環境	30	1.76
地理區又は地域、環境、氣候	51	2.99	生活樣式、分布、環境	29	1.70
地形、氣候、雨量	49	2.88	生活樣式、文化、環境	27	1.59
分布、地形、氣候	48	2.82	產業、地理區又は地域、氣候	22	1.29
地形、交通、氣候	48	2.82	生活樣式、地理區又は地域、氣候	20	1.18
文化、環境、氣候	41	2.41	その他	487	28.63
文化、地理區又は地域環境	40	2.35	計	1,701	100.00

備考・(1)「その他」の487枚の内譯は次の通りである。

同一回答が16枚のもの 1種	同一回答が11枚のもの 3種	同一回答が5枚のもの 6種
〃 15 〃 3〃	〃 10 〃 4〃	〃 4 〃 2〃
〃 14 〃 1〃	〃 9 〃 3〃	〃 3 〃 9〃
〃 13 〃 4〃	〃 8 〃 5〃	〃 2 〃 17〃
〃 12 〃 2〃	〃 7 〃 3〃	〃 1 〃 64〃
	〃 6 〃 2〃	

(2) 問題では番號の記入順序を指定してなかつた。この表ではすべて番號の順序に統一してある。

第二表

回答	件數	A	B	回答	件數	A	B
地形、氣候	705	13.82	41.45	人口、氣候	86	1.68	5.06
環境、氣候	450	8.82	26.45	産業、地形	79	1.55	4.64
地理區又は地域、環境	258	5.06	15.17	分布、地理區又は地域	78	1.53	4.59
地形、環境	250	4.90	14.70	産業、地理區又は地域	67	1.31	3.94
文化、環境	207	4.06	12.17	地形、文化	67	1.31	3.94
産業、氣候	196	3.84	11.52	文化、地理區又は地域	66	1.29	3.88
分布、環境	196	3.84	11.52	分布、地形	65	1.27	3.82
生活樣式、環境	187	3.66	10.99	産業、文化	60	1.18	3.53
産業、環境	165	3.23	9.70	氣候、雨量	59	1.16	3.47
地理區又は地域、氣候	161	3.15	9.47	人口、境環	58	1.14	3.41
生活樣式、氣候	147	2.88	8.64	生活樣式、地形	56	1.10	3.29
文化、氣候	145	2.84	8.52	地形、人口	52	1.02	3.06
分布、氣候	115	2.25	6.76	地形、雨量	52	1.02	3.06
土壤、氣候	107	2.10	6.29	その他	774	15.17	45.50
生活樣式、地理區又は地域	100	1.96	5.88				
地形、土壤	95	1.86	5.58	計	5,103	100.00	300.00

備考・(1)「その他」の774件の内譯は次の通りである。

同一回答46件のもの 1種	同一回答22件のもの 2種	同一回答5件のもの 3種
〃 45 〃 1〃	〃 19 〃 1〃	〃 4 〃 2〃
〃 43 〃 2〃	〃 18 〃 1〃	〃 3 〃 12〃
〃 42 〃 1〃	〃 14 〃 1〃	〃 2 〃 11〃
〃 39 〃 2〃	〃 13 〃 2〃	〃 1 〃 23〃
〃 36 〃 1〃	〃 12 〃 2〃	
〃 32 〃 1〃	〃 11 〃 1〃	
〃 29 〃 1〃	〃 10 〃 4〃	
〃 28 〃 1〃	〃 9 〃 1〃	
〃 27 〃 1〃	〃 8 〃 2〃	

(2) Aは各行の件數の總數5,103に對する百分比。Bは總數1,701枚に對する百分比。

ところで本塾經濟學部入試では「社會」の五科目卽ち一般社會・時事問題・人文地理・日本史・世界史の中から一科目選擇することになつて居る。受驗者八、九七四名のうち、一、七二八名が人文地理を選擇した。そのうちこの問題に對して回答をしなかつた者が二一名、數字を一つだけ記入した者が二名、二つだけ記入した者が四名あつた。殘り一、七〇一名が數字を三つ宛記入した。その一、七〇一枚の回答について集計して數字をもとの字に飜譯すると、第一表のようになる。

一八の概念を三つ宛組合せると八一六の組合せが可能であるが、實際には一五三の組合せしか現れて居ない。そして回答はその一五三通りの組合せの間にかなり分散して居るかのように見える。然しちよつと注意して見ると、環境殊に自然環境を重視するものが多いことに氣着く。假に、最も多かつた型の回答の第一〇位までを見ただけでも、そのうち第一、第二、第九番目が「環境」並びに地形・氣候・土壤・雨量の組合せであつて枚數は三五九枚、總數の二一%に當る。反對に「環境」と社會現象だけを擧げて居るものは、第一〇位までには一つもなく、第一六位になつて初めて現れる。然も問題に示された一八の概念のうち自然現象に關するものは地形・平野・土壤・氣候・雨量・海洋の六であり、社會現象に關するものの方が多くて、生活樣式・産業・政治・集落形態・文化・貿易・人口・交通の八である。

次に「地理區又は地域」を擧げて居るものは第五、第七、第八番目にあり、一五八枚九%しかない。「分布」を擧げたものは更に少く、一〇一枚六%である。この一、七〇一名の受驗者中多數の者にとつては、人文地理研究の重點が環境との關係の研究にあるものと見てもよいであろう。

次にこの回答を分解して、一つの回答から二つの概念の組合せを三組宛ぬきだし、それを集計したのが第二表である。

この場合可能な組合せは一五三組であるが、ここに實際現れたのは一〇九組であつた。そのうち同じ回答が最も多く現れた型は、やはり第一表と同樣に自然現象を擧げて居るもので、第一、第二、第四番目の型が合計一、四〇五件、總數五、一〇三件の二七・五%に當る。第一表での割合と比べて、大分多い。然し「環境」と社會現象を擧げたものが案外に多く、第五、第六、第八、第九番目の型が合計七五五件、一四・八%を占める。

「地理區又は地域」を擧げて居るものは、第三及び第一〇番目だけで四一九件、總數の八・二一%であつた。また「分布」を擧げたものは第七番目の型ばかりで、一九六件、三・八%に過ぎない。

斯くして、第一表で見えた傾向は、第二表ではむしろ強くなつて居ると云つてもよいであろう。この事は更に、これ等種々の回答の受驗者總數に對する割合を見ると、一層顯著になる。受驗者のうち七〇五名四一・四%が、「地形、氣候」を擧げ、四五〇名二六・五%が「環境、氣候」を、二五八名一四・七%が「地形、環境」を擧げて居る。尤も同一人でこれ等のうち三つの回答を併せ記入して居る者が、第一表で見られる通り二一

人文地理學に對する大學入試受驗生の考え方に就いて

第三表

回答	件數	A	B	回答	件數	A	B
氣候	1,133	22.20	66.61	集落形態	104	2.04	6.14
環境	933	18.28	54.85	雨量	65	1.27	3.82
地形	754	14.78	44.33	交通	38	0.74	2.23
地理區又は地域	419	8.21	24.63	政治	23	0.45	1.35
產業	353	6.92	20.75	海洋	22	0.43	1.29
文化	339	6.64	19.93	移動	18	0.35	1.06
生活樣式	329	6.45	19.34	貿易	7	0.14	0.41
分布	300	5.88	17.63	平野	2	0.04	0.12
人口	153	3.00	8.99				
土壤	111	2.18	6.52	計	5,103	100.00	300.00

備考・A、B、は第二表の場合と同じ。

七名二二・八%も居るのだから、この三組の數を合計することはできないが、とも角非常に多いことは明かであろう。

そこで回答を更に分解して、一つ一つの概念ごとに集計してみると第三表のようになる。

即ち「氣候」「環境」「地形」が合計二、八二〇件記入され、總數五、一〇三件の五五・三%に當る。これに反して社會現象の記入された數は遙かに少く、全部を合計しても二六・四%にしかならない。また「地理區又は地域」及び「分布」は合計しても一四・一%で、「環境」に比べて非常に少い。

結局この受驗者達は、「環境」殊に「氣候」に重點を置いて居る人が多いと思われる。「氣候」を記入した者は一、七〇一名のうち一、一三三名、六六・六%にも及ぶのである。

斯くしてこの一、七〇一名に關する限り、環境の問題、殊に氣候・地形などの自然環境の問題に重點を置いて居る者が多いと云えるであろうが、この傾向は、一般の大學入試受驗生や高等學校生の間にもあるのであろうか。

尙、このような數字の出て來たことに關しては、單に考え方だけでなく、學力の如何も多少は關係して居るかも知れないことを附記して置く。例えば第三表で見られる通り、「氣候・雨量」という無意味な記入をした者が五九名もあつたのである。然し乍らこの人達も自然環境に重點を置いて居ることは明かであるから、結局、右に述べた結論には影響がないと思う。

（一九五三・五・六）

故マルク・ブロック教授の歷史理論について

—遺著「歷史學のための辯明」の紹介　その二—

渡邊國廣

現在と過去との關聯性を究明することを以て歷史家の任務であると說いた第一章「歷史・人間達及び時間」（本章については、三田學會誌第四十六卷第四號所載の拙稿參照）に次いで、著者は、第二章「歷史的觀察」において、歷史研究の一般的特徵が資料を媒介として成立する點にあるとしている。然し著者は、歷史研究が資料を媒介として成立すると考えたこの場合においても、歷史研究が資料に依つて制約されるとは思わない。寧ろ歷史研究は、著者に依れば、資料に對する歷史家の積極的な理解力、又は豐富な解釋力に依つて支えられているのであり、しかも資料に對する歷史家のこの積極的な理解力、この豐富な解釋力が、歷史研究を無限に進步發展せしめずには措かなかつたのである。

以下は、以上の如き骨子を持つた第二章の單なる紹介に過ぎない。但し第三節「證據の存續」は、一般に興味がないと思うから省略した。

*　*　*

歷史研究の一般的特徵

普通の意味において理解されている限りの歷史研究の最も顯著な特徵については、既に述べられた。歷史家は、研究する事實自體を目擊することが絕對に不可能な立場にあるといわれている。成程、如何なるエジプト學者も上古エジプトの諸王に會つてはいないし、又ナポレオン戰爭の如何なる專攻家もオスタアリッツにおいて使用された大砲を見てはいない。從つて歷史家は、先行する時代について、證據に依つてしか語ることが出來ない。歷史家は、居合わせない犯罪の處理に當る豫審判事や、風邪のため部屋に引籠つて助手の報告に賴るほか實驗の結果を知ることが出來ない物理學者のようなものである。勢い過去についての理解は、間接的とならざるを得ない。

以上述べたところが眞實であることを、誰もが否定する積りはないであろう。然し間接的という點に、果して歷史研究の最も顯著な特徵があるといい得るのであろうか。現在のことを理解するに際しても、間接觀察が援用されていたではなかつたか。